

## index

- ◆ 1 ページ
  - ・ 研修の様子（新任教務主任研修、教務主任研修）
  - ・ 学校のお勧め資料（二葉中学校）
  - ・ 今月のお勧め資料（新任教務主任研修、教務主任研修）
  - ・ 特別セミナー案内（『板書の達人』を目指して）
- ◆ 2 ページ
  - ・ どの子にも分かる、できる授業づくりの工夫
  - ・ 言語活動の充実シリーズ『数学科編』

H26 8.29 新任教務主任研修  
教務主任研修



上の写真は、8月29日に合同開催した「新任教務主任研修」と「教務主任研修」の一コマです。講師の磯部年晃学力調査官（国立教育政策研究所）が、子どもたちに付けたい力の実現を目指した授業改善のポイントとして示してくださったのは、全国学力・学習状況調査の結果分析に基づいた学校課題の把握と解決の方途についてです。

全国学力状況調査問題の演習を通して、次の2点を押さえることで身に付けたい力を育成する授業は劇的に変化することを学びました。

1点目は、子どもが何をどこまで表現することができれば、1単位時間のねらいを達成したことになるのかを、授業者が明確にすること。

2点目は、どのようなつまづきをしているのか、実態を把握することです。

受講された先生方からは、「校内で単元ごとに子どもたちのつまづきや付けたい力を明確にする視点や研修会の持ち方の工夫の必要性を感じた」「誤答分析等をまだまだ充実させる必要がある」「組織的な学力向上の取組の方法や言語活動の充実を図る研修のあり方などよくわかった」等の感想がありました。これからの実践イメージを具体的にもつことができましたようです。「今月のお勧め資料」に当日の資料を紹介していますので是非ご活用ください。

## 調査結果を基に、

## 全教職員で共有ビジョンをもつ！

平成25年度、二葉中学校では、全国学力・学習状況調査等の結果から、通過率30%未満の生徒が10%以上いたことを踏まえ、運営委員会を中心に全教職員で議論を重ね、次の目標を設定し、指導を継続しました

### 【目標】

特別支援教育の視点から毎月1回の授業改善研修会を実施し、「授業がわかる」と考える生徒の割合を70%以上にする。

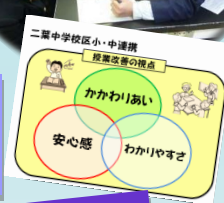
こうした目標の実現に向けて、全教職員が右表のような「安心感」「わかりやすさ」

「かかわりあい」の3点をキーワードに授業改善を行っています。その結果、「基礎・基本」定着状況調査において通過率が向上し、通過率30%未満の生徒も減少してきています。

広島県「基礎・基本」定着状況調査（理科）の変容（H.25～26年度）



## 二葉中学校



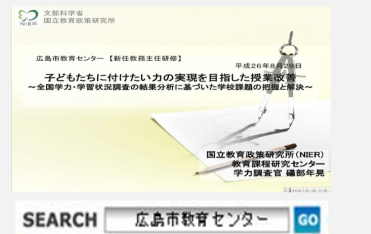
## 「わかる授業」をめざす！

	内容項目	取組内容
安心感	整備された教室環境	・ 教室内では授業にとって不適切な刺激を減らす。 ・ 小さな物音でも聞き逃さずに減らす配慮をする。 ・ 無音の時間を効果的に取り入れる。 ・ 生徒が物音を立てていることに気付かせる。 ・ 声かけをする。
	教室の音を減らす	
	いいことを認める	・ できていることを正しく誉める。 ・ 教師の評価から生徒相互の評価に変えていく。
わかりやすさ	授業のめあて・ポイントを明確に示す	・ 板書の構造化を図る。 ・ めあてを本時のねらいを到達させる内容にする。
	伝わりやすい指示	・ メリハリをつける。 ・ 話の間をとる。 ・ 生徒が聞き取りやすい話し方にする。 ・ 言葉を減らし、足りない部分は視覚支援や非言語で補う。
かかわりあい	つかみ、ワクワク感を大切に	・ 授業最初のつかみで、意欲を持たせる。 ・ 授業で1ヶ所以上のワクワク感を持たせる内容をつくる。
	生徒相互の活動・教え合いを取り入れる	・ 1単元の中で1回以上はグループ討論を組み込む。 ・ グループ活動のルールの指導と掲示を行う。
	生徒の自主的な活動、意見発表をつくる	この取組は現在、二葉中学校区の取組として、尾長小学校、中山小学校、矢賀小学校においても共通して取り組まれています。
	発問を工夫する	

二葉中を変える！創る！

## ★今月のお勧め資料

「新任教務主任研修」と「教務主任研修」との合同研修の講師、磯部先生の資料を内部Webにupしています。結果分析に基づいた課題把握を踏まえて、今まさに求められている「子どもに付けたい力」を明確にした、思考力・判断力・表現力を培う学習指導を具体化するポイントがよく分かる資料です。



## 『土曜開館』特別セミナー御案内 『板書の達人』を目指して

9/20(土) 13:30~

電話/ファクスでお申し込みください



# 連載③

## 「どの子にも分かる，できる授業づくりの工夫」

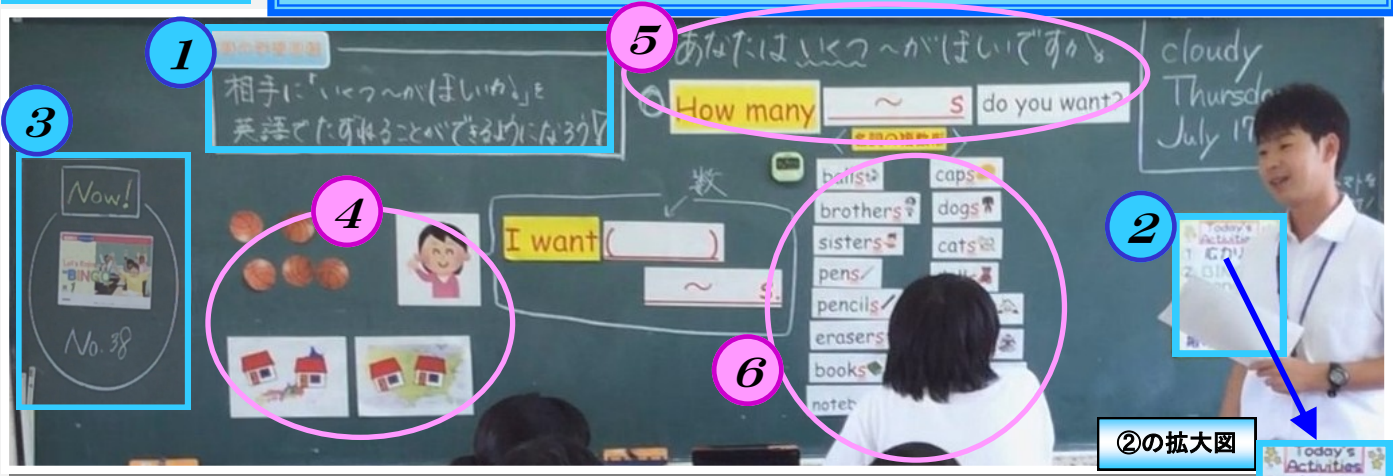
温品中学校  
教諭 山中 晴詞  
先生の実践より

今回は，中学校の取組，特に，学習の見通しを持つことや内容の理解を助けることを目的とした工夫点を紹介します。

### <工夫1>

#### 学習の見通し

①本時のめあて ②本時の流れ ③現在学習している場所などを，分かりやすく示しています。年間を通じて同じ位置に示しておくこと，更に有効です。そうすることで，集中が途切れたときでも，視覚的な提示を見て授業に再び参加することができます。



### <工夫2>

#### 内容の理解への支援

④イラスト ⑤基本文 ⑥単語カード を活用・提示しています。基本文はキーワードの色を変えて示し，単語カードの単語を基本文に入れ替えながら繰り返し練習できるようにしています。

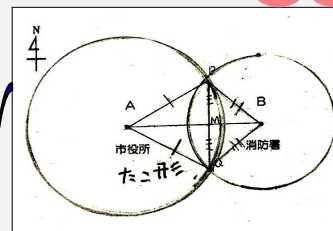
## 「言語活動の充実」シリーズ③

## 数学科編

美鈴が丘中学校 教諭  
道閑 由紀子先生の実践より

【問題】宝物を埋めた場所を特定し，交わる2つの円の性質を見つける問題です。①市役所(A)から4km，消防署(B)から3km離れている。②南北にそれぞれ1カ所埋めている。北側の宝(P)，南側の宝(Q)とし，4つの場所(A,B,P,Q)を結ぶ道路を作図するとどんなことが言えるだろうか。3つ以上見つけよう。

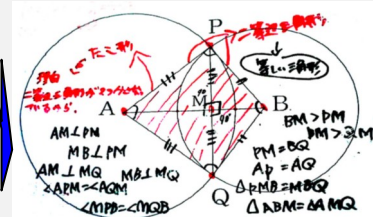
### 学習過程



作図から明らかな事柄 ( $AP=AQ$ ,  $BP=BQ$ ) のみを書いていく。

$PM=QM$  は根拠はないが，見た目から交わる2つの円の性質を見だし記述している。

### SHOW&TELL



### 質の向上!

互いの考えを伝え合う場面では，交わる2つの円の性質を見だし，その性質を見出した根拠を線対称な図形(四角形APBQ)の性質のもとに記述できている。

$AB \perp PQ$  になる  
 $PM=QM$  になる  
 $\angle PAM = \angle QAM$  になる

### 指導のポイント!

#### 自力解決 1 自分の考えをもたせる工夫

問題解決に向けて見通しをもたせるためには，紙を折る数学的活動等をさせ，辺や角の相等関係や位置関係をイメージさせた上で，既習事項から理由を考え，記述させることが大切です。

#### 相互説明 2 説明の仕方の指導

説明場面では，より簡潔で明快に他者に伝えるために，ホワイトボード等で図や式を示しながら説明するよう指導すると良いでしょう。質疑応答が生まれるように聞き手側を指導していくことが重要です。

#### 集団解決 3 学びの質の向上

相互説明，集団解決の際には，必ず，自分の考えと他者の考えを比較させる時間を持ち，自分の考えを修正させるとともに，様々な考え方や表現方法を学ばせることが大切です。

数学では，①考えたり，②説明したり，③伝え合ったりする学習活動の場面で言語活動の充実を図ることが可能です。自分の考えを整理したり説明したりする際に，「式」だけでなく，「言葉や図，表，グラフ」を組み合わせて用いる良さに生徒自らに気付かせることが大切です。